

【研究課題のご紹介、臨床研究参加に関するお願い】

◆「高齢者間質性肺炎の臨床病理学的検討」

～急性増悪の予防・治療、肺癌合併のリスクファクター解明への後ろ向き研究～

【はじめに】

現在、原発性肺癌は日本人の癌の死因では 1993 年に胃癌を抜いて第 1 位となっており（男性 1 位、女性 2 位）、今後も患者数、肺癌手術症例は年々増加することが予想されています。背景には重喫煙歴のある肺気腫や間質性肺炎といった慢性肺疾患が増加していることが分かってきました。その中でも特に原因がはっきりしない疾患群を特発性間質性肺炎（idiopathic interstitial pneumonias; IIPs）と呼んでいて、生命予後が悪いこともこれまでの研究で明らかとなってきました。その原因として肺癌の合併、間質性肺炎の急性増悪が挙げられます。しかし、その機序について、現在、様々な基礎的・臨床的な研究がされていますが、明らかにはされておらず、いまだ予防薬・治療薬についても有効なものはありません。間質性肺炎に合併する肺癌発症のリスク因子について、また肺癌術後の間質性肺炎の急性増悪発症について発生機序を明らかにすることは急務な課題と言えます。

【研究内容】

本研究では、間質性肺炎に合併する肺癌や急性増悪を起こす機序を解明して、今後の治療成績改善のための新たな知見を得ることを目標にします。

【対象患者】

1990 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日までの期間に東京都健康長寿医療センターにて解剖を受けられた患者さんの中で、間質性肺炎と診断のついた症例を対象とします。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の過程において、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない患者さん、ご家族さま、ご遺族様は以下連絡先までご連絡ください。

【医学上の貢献】

本研究の結果により、現在の間質性肺炎治療の現状を把握するとともに、治療成績の改善に向けた大切な基礎的な情報を解析、収集します。

【研究機関】

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター呼吸器外科

研究代表：日野春秋（医長）

研究協力者：西村 隆（心臓外科・呼吸器外科部長）

新井富生（病理部部長）

関 敦子（病理部）

熊坂利夫（病理部 非常勤）

なお本研究計画書に関しては当院倫理委員会にて承認を受けております（R16-22）。

連絡先：

〒173-0015

東京都板橋区栄町 35-2

Tel:03-3964-1141(代表)

FAX:03-3964-1982